

# 東京バッハ合唱団 月報

[第518号] 2005年8月号

〒156-0055 東京都世田谷区船橋 5-17-21-101 Tel: 03-3290-5731 Fax: 03-3290-5732  
E-mail: bachchortokyo@aol.com http://www2.tky3web.ne.jp/~bach/chor/

BACH-CHOR, TOKYO

Monthly Newsletter No.518

August 2005

5-17-21-101 Funabashi,  
Setagaya-ku, Tokyo

## 2005年夏を最大限に充実させよう

大村 恵美子

5月15日 第97回定期演奏会 のあと、6月25日 団員総会、同27日 創立43周年記念懇親会・バザー と、順調に予定の行事を終えて、合唱団は、この夏の2大コンサートと野尻湖合宿の準備に専念している現在です。

7月30日(土) 世田谷中央教会 夏の特別演奏会

8月4日(木)~7日(日) 野尻湖合宿

8月6日(土) 神山教会特別演奏会

ここまで終わると、8月8日(月)~29日(月)の間、練習は夏休みとなります。練習再開は9月3日(土)から。ふたたび、12月17日の 第98回定期演奏会 に向けて、努力を積み上げることとなります。

2007年4月予定の、第100回定期演奏会(《マタイ受難曲》上演)までには、団員数を70~80名程度にすることを目標としています。《マタイ》上演には、合唱とオーケストラとをそれぞれ2組に分ける必要があり、人員・予算とも倍の規模を要するからです。

そのためには、まず新年度(2005年7月-)の早い段階に55名以上を確保し、2006年春(上演1年前)には、60名以上で《マタイ》の本格的練習開始を迎え、そして本番は70~80名の規模に達する、という、緊急の団員増加を、ぜひとも実現させなければなりません。新年度の団員数計算は、“団員数55名”を前提に計算することとし、いわば背水の陣でのぞむことになりました。

9月から、団員各自が、本格的に仲間を誘い、効果をあげられるよう、7月30日の特別演奏会以降を、大事な期間として考えていただきたいものです。それにはまず、毎回の練習を充実したものにしよう、出席率を高めてゆかなければならないでしょう。旧団員の方々の復団も、後援会からの入団も、大いに期待しています。

皆さま方のご協力を、お願いいたします。

## 2005年度団員総会と創立43周年記念懇親会

平田 輝子(団員:アルト)

### 2005年度団員総会

6月25日(土)午後3時30分より、世田谷中央教会で、大村先生と橋本眞行氏を含め、約20名の団員出席のもとに2005年度団員総会が行われた。

## 2004年度活動報告

今年度は通常の活動に加えて、力行祭参加(2004年10月23日)、富坂キリスト教センター30周年(2005年4月23日)での2つのコンサートがあり、また5月15日の定演では、オルガニストの草間美也子さんがお怪我で出演できず、急遽、堀井美和子さんをお願いするというハプニングもあった。

## 2004年度 団通常会計報告、来年度予算案の承認

来年度は、団員数を最低でも55名以上にしなければならないという目標を立てて、全員で協力して団員を増やす努力をして欲しいという要望が出された。発声指導は、年間予算を考えながら年10回程度を予定する。

## 演奏会会計報告

今年度は、定演ごとにバザーの売上や個人的な寄付などで支援を強化することができ、赤字にならずにすんだ。

## 後援会会計報告

今まで寄付金等で少しずつ赤字を減少させているが、後援会員の高齢化で退会する方々も多く、支出を極度に切りつめて、収支のバランスをとっている。マタイ演奏会までには赤字をすべて解消するよう努力する。

## 各係報告および2005年度担当者の選任

係		04年度	05年度
パートリーダー	S	S 片岡、S 菅原(昌)	S 小口、S 菅原(昌)
	A	A 箕浦、A 小野	A 平田、A 松沢
	T	T 大村	<留任>
	B	B 片岡、B 戸川	<留任>
演奏会係		S 荒井、A 田中、 B 加藤、B 山下、 B 松尾、B 室田、	<全員留任>
会計係		A 高野、A 山下	<留任>
会計監査		B 笠原	<留任>
合宿係		ソプラノ	テノール・バス
メディア係		S 宮田、A 中山 B 松尾、B 片岡	<全員留任>
名簿係		S 片岡	<留任>
企画係		B 片岡、B 戸川	<留任>
楽譜係		S 菅原(文)、A 山崎	<留任>
月報係		T 大村	<留任>
資料係		T 大村、B 松尾	<留任>
広報係		S 川合、B 山下 B 松尾 (HP担当)	<全員留任>

次年度もよろしくお願いいたします。

## 団員募集の方法、その他

本日の最重要議題である、団員を増やす方法について、時間が迫って十分な討議はできなかったが、いくつか提案があった。

団員募集の広告を載せた7月30日のコンサートのチラシ

シを、世田谷地域、特に桜新町の駅の近くで直接配布したり、各家庭へポストイングする。地域のコミュニティー紙・誌に、団員募集の広告を掲載する。団員募集の広告を、近隣教会や沿線各教会へ郵送する。カンタータ 147 番のコラールなど馴染みのある曲を、各教会で歌ってPRする、等さまざまな案が出された。

財政面での強化に関しては、B 山下さんより、企業や文化支援財団へ寄付をお願いしたらどうかという話も出ている。

後に先生から、現在の「マタイ受難曲準備委員会」のような機関が、マタイ終了後も継続して選曲委員会となり、それ以降の団の活動について協議をしていって欲しいとの要請があり、6時10分総会は閉会した。

### 創立 43 周年記念懇親会・バザー

週が変わって、6月27日(月)6時30分より目白聖公会において創立43周年記念懇親会が行われた。例年は団員総会の後にレストランで行われる懇親会も、今年は、財政支援とマタイに向けての資金作りバザーを兼ねた手作りの会にしたら、という先生の意向で、ソプラノが中心になりアットホームな食物持ち寄りの会になった。

当初お客様が少ないのではと思われたが、当日は先生を含めた団員側が33名、お客様が8名、総勢41名と、最近では異例の参加者数だった。

参加者の方々がいろいろなものを持ち寄った今回の懇親会では、先生自ら作られた、こんにゃくと里芋の煮物を始めとした、おいしい手作りのお惣菜やお菓子、ワインや果物と、とても豪華なパーティーだった。

司会進行は、大村健二さん。まず後援会員・川戸龍夫様の乾杯の音頭から始まり、おいしい食事とおしゃべりにひととおり花が咲いた頃、余興が始まった。トップバッターはソプラノの川合さんとパスの松尾さんによる、カンタータ 137 番アリアのデュエットです。月曜の練習ピアニスト・田村由希子さんのピアノに加え、今回は大村健二さんとともに私が、2本のフルートでオーボエ・パート部分の伴奏をさせていただいた。私としてはとてもいい経験をさせていただき、お聞きぐるしい演奏に耐えてくださった皆様に感謝いたします。

2番目には、長年の後援会員として、強力なご支援をお寄せいただいている安原美世子様のリコーダー演奏。美しい音色に、一同シーンと静まり返って聴き入りました。

つぎに、田村さんのピアノ独奏で、リストの《愛の夢》。ふだん演奏を聞かせていただく機会がないので、とても貴重な1曲でした。つづいてアルトの室田さんと悠介君、真由ちゃんの親子競演。ピアノの連弾でスマップの《世界でたったひとつの花》を聞かせてくれました。悠介君は少々緊張気味でしたが、真由ちゃんは嬉々としていました。

そして、女性団員によるカンタータ 78 番のデュエット。お酒が少々入っていたせいか、心なしかふだんよりちょっぴりお色気(?)を感じさせてくれる合唱でした。

最後には、有名なカンタータ 147 番のコラールを全員で歌い、竹内さん(ソプラノ団員)のお庭で咲いた花で作った豪華な花束を、大村先生と伴奏者の田村さんに贈呈し、加藤さん(バス団員)の挨拶をもって、大いに盛り上がり

た懇親会が終了いたしました。準備をしてくださった皆様、本当にお疲れ様でした。

来年以降も、創立記念懇親会はこの形式でいいのではないかと考えている、との先生のお言葉でした。

食事や余興で盛り上がっている間、今回の目玉であるバザーのコーナーでは、みなさん、たくさんの買い物を楽しんでくださいました。

最後になってしまいましたが、5月の呼びかけ以来、このバザーのために、戸田敏子先生、佐々木まり子様、石井千恵子様、安原美世子様、中澤富士子様、武藤京子様、森延幸様、松井啓子様その他多数の方々がなんども重ねて、貴重な品々をご提供くださり、また団員も、練習ごとにつくりの食品も加えた多種類のものを持ち寄っては、精一杯買ってくださいました。

ご協力くださいました皆様に、あらためて心より御礼申し上げます。

▼ 大繁盛のバザーコーナー



▼ 集会場をいっぱいに使っての懇親会。中央のテーブルには持ち寄りのお料理など。ソプラノとアルトの皆さんが《カンタータ 78 番》の二重唱を熱演。2005.6.27、目白聖公会、写真：いづれも松尾茂春氏



カンタータ第197番《主 かたき望み》

„Gott ist unsre Zuversicht“ BWV197

訳詞/解説: 大村恵美子

【訳詞】

結婚式前 (第1部)

1. 合唱

主 かたき 望み  
み手に よりたのむ  
主 道を 拓(ひら)き  
共に いませば  
いづくにても 主の 幸 あり

2. レチタティーヴォ (バス)

いと善き み心は 家を 保つ / われらの わざは 導かる  
奇(く)しき み手に / 思いもうけぬ 終り  
主 われらに 備え / 得させたもう  
愛する 子らの 幸を 主は / 幼き ときより み手に する  
したまえり

3. アリア (アルト)

思い わずらいを  
投げ入れよ  
安き 眠りに  
めざめて われらを  
守る 主の まなざし  
ゆくてを 拓きたまわん

4. レチタティーヴォ (バス)

されば 従い 歩め / 主の 正道(まさみち)  
労苦の 果て ついに 導かれん / 鍛えられし 愛は  
ともどもに 至らん / 聖(きよ)き 神の み座に  
主 とりなしを たまえ

5. コラール

主の 愛よ われらにも  
熱き 思いを たまえ  
たがいに 愛し 一つなる 心に  
平和を たまえ  
キリエ エライス

(Martin Luther „Nun bitten wir den Heiligen Geist“ 1524 第3節)

結婚式後 (第2部)

6. アリア (バス)

いとしき 夫婦(めおと)よ  
なれらに 救いと  
祝福 のぞみて  
ゆくて 開かれん  
いとしき 夫婦よ

7. レチタティーヴォ (ソプラノ)

歩み つたなき / 幼な児の 日より 守りし 主  
今も 後も / こよなき 友  
つねに いまさん / されば かたく 信ぜよ  
日々の わざに / 主は 良き もの  
欠かすこと なし / なが 幸 限りも あらず

8. アリア (ソプラノ)

満ち足れる  
幸いは  
いや増しに 加わらん  
まなこも 胸も  
とわに 主の ものとなり  
満たさるべし

9. レチタティーヴォ (バス)

この 喜ばしき 歩みは 続くべし / 主の 慈しみは  
なれらの 思いを 超えて / 注がれん 豊かに  
されば 抱け 主に / いと かたき 望み

10. コラール

喜びて 主の 道  
ひたすら 行なえ  
祝福を 受くれば  
朝ごと 新たなり  
かたく 望む 者  
主 顧みたまわん

(Georg Neumark „Wer nur den lieben Gott läßt walten“ 1657 第7節)

## 【解説】

初演：1736/37年。

結婚式用だが、作曲時期、経緯等の詳細は、原詞作者ともども不明。単純素朴で、弦楽合奏のみの、小規模な初期の結婚式用カンタータ第196番《主は おぼえたもう われらを》(1708年)に比べると、はるかに大規模(トランペット3,ティンパニ,オーボエ2,ファゴット,弦合奏)で、2部に分かれた10曲からなり(演奏時間約27分)、内容的にも、ただ結婚の祝福にとどまらず、神に対する全面的な信頼,その象徴としての安眠の子守歌,また将来の繁栄等、豊富な日常生活の肉づけをもって、広汎な信仰者の幸福を歌い、祈る。

結婚式に限定されない、普遍性をもった、堂々たるカンタータである。

全体の構成は、

<第1部：結婚式前>	<第2部：結婚式後>
1. 合唱	6. アリア(B)
2. レチタティーヴォ(B)	7. レチタティーヴォ(S)
3. アリア(A)	8. アリア(S)
4. レチタティーヴォ(B)	9. レチタティーヴォ(B)
5. コラール	10. コラール

テノール独唱はなく、バスが、司式の牧師のような役割で、後半ははじめの、新夫婦に呼びかける大アリアのほか、2., 4., 9. と3つのレチタティーヴォで、場面をつないでゆく。前半3.のアルト・アリアは、1.合唱の 主 かたき望み を受けた、親の愛にすっかり身をゆだねた幼児の信頼を、子守歌であらわし、後半7., 8.のソプラノのレチタティーヴォとアリアでは、甘美な神の贈り物にみたされた、情感に溢れるシチリアーナのリズムの歌となる。第1部と第2部の終りをそれぞれに締めくくるコラールで、神の愛による日々新たな平和を祈る。理想的に組み立てられた、祝福のカンタータである。

### 1. 合唱

トランペット3,ティンパニ,オーボエ2,弦の整然たるトゥッティに始まり、合唱が2分の2拍子のくっきりした主題でフーガを展開する。中間部 主 道をひらき 共にいませば で、トランペットとティンパニが休み、オーボエ,弦だけの軽い器楽伴奏に、合唱が神への感謝を、並行短調(口短調)で、内面的に歌い、ついで二長調のダ・カーポが再現する。この曲は、信仰生活のあらゆる機会にふさわしい名曲である。

### 2. 4. 9. レチタティーヴォ (バス)

これら3つのバス・レチタティーヴォでは、とりわけ結婚する二人に向けられた内容が語られる。また1曲ごとに楽器編成も増し、生涯の祝福がいや増される。

2. いと善きみ心は 家を保つ .....通奏低音のみ
4. 鍛えられし愛は 共々に至らん 聖き神のみ座に  
.....弦 + 通奏低音
9. 主の慈しみは なれらの思いを超えて 注がれん  
.....オーボエ + 弦 + 通奏低音

### 3. アリア (アルト)

2. レチタティーヴォの終りの 愛する子らの幸を 主は

幼きときより み手にしるしたまえり を受けて、思いわずらいを投げ入れよ 安き眠りに とすめるこの子守歌は、オーボエ・ダモーレと弦合奏をともなった、包みこむようなアルトの声で、至福にみちた神への信頼を歌う。1.合唱の内容を、対照的なムードで表現したものである。

### 5. コラール

第1部の終りは、ルターの「いまぞわれら聖霊に頼み」(Martin Luther „Nun bitten wir den Heiligen Geist“1524)第3節。

### 6. アリア (バス)

オーボエ,ファゴットと弦合奏で華やかにいさげられたバス独唱が、いとしき夫婦(めおと)よ と、10 数回も呼びかけながら、結婚式の成立した二人に、神の祝福をとりつく。

### 7. レチタティーヴォ (ソプラノ)

たっぷりした内容を歌うセッコ・レチタティーヴォで、幼いときから恵みを注いできた主が、今後も友としてとどまり、その幸は 限りもあらず と、アリオ・ゾとなって後半を蔽いつくす。

### 8. アリア (ソプラノ)

ソプラノと同じ旋律を歌いだす独奏ヴァイオリンは、次第に16分音符のパッセージのオブリガートで、ソプラノをとり巻き、2本のオーボエ・ダモーレは、シチリアーナの軽いリズムを終始刻んでゆく。満ち足れる幸いは いや増しに加わらん と、至福を歌い、中間部では、より官能的に まなこも胸も とわに主のものとなり と熱を帯びてくる。ここでは、イエス(花婿)と教会(花嫁)に譬えられる。信仰の奥義を、まさに結婚式を終えた新夫婦に実感させようとするかのようである。

### 10. コラール

全曲を締めくくるコラールは、バッハの愛好したノイマルクの 主 によりたのみ (Georg Neumark „Wer nur den lieben Gott läßt walten“,1657)第7節。(ちなみにこのコラール旋律は、BWV197をふくむ、バッハの8曲のカンタータに用いられた。他にBWV21,27,84,88,93,166,179)

このカンタータ冒頭の 主 かたき望み(Gott ist unsre Zuversicht) と始め、最後に かたく望む者(Zuversicht auf Gott) 主 顧みたまわん と閉じるのは、いかにも神への信頼の、一貫性を表わしている。FINE